

—第54編— ガラスと鉄の南への憧憬

R・マッキントッシュ^{*1}の生地グラスゴー^{*2}は、産業革命によって繁栄した人口60万足らずのスコットランド最大の文化都市である。その西外れに1817年に創立された植物園があり、そこに「キッブル・パレス」^{*3}がある。当初はデザインをしたエンジニアのジョン・キッブル^{*4}自邸として1860年に建築されたが、その後植物園に寄贈され、1873年に現在の位置に移築された。

グラスゴーの近辺には、世界初の鑄鉄アーチ橋（The Iron Bridge：1781）があるなど、産業革命時の最先端技術を駆使した重要な建造物がいくつも残されている。この温室はその中でも見逃すことのできないエレガントな代表例である。氣候が不順な北部欧州にあって、地中海沿岸や南国の光と緑溢れる暖かい風土は憧れの的であった。このことを今に残る数多くの温室の存在が明らかにしている。特に鉄とガラスの技術が開発され発



写真54-1 キッブル・パレス外観

*1
Charles Rennie
Mackintosh
(1838～1928)

*2
Glasgow: スコットラ
ンド南西部の大都市。
人口約60万

*3
Kibble Palace: グラ
スゴー植物園内の温室
群の一つ

*4
John Kibble
(1815～1894)



写真54-2 キッブル・パレス天井中央見上げ

展した19世紀半ば以降は、ロンドンのキュー・ガーデン^{*5}にある巨大な温室パームハウスをはじめ、優れた事例が多い。この温室でキッブルは驚くほど細身の鑄鉄部材を緩やかに湾曲させながら、とても優美な姿の構造体（約2,100㎡）を実現させた。外から見ると、まるでUFOが地上に降り立ったようだ。温室内

*5
Royal Botanic
Gardens, Kew

に置かれた植物群は、当時植民地であった南半球のニュージーランドやオーストラリアから持ち込んだ木生シダの品種コレクションが中心である。なお、2006年に構造物の全面的な解体・改修が行われ、この温室は当時の姿に再生された。

イギリスに残る優れた温室や植物園を巡れば、南への憧憬を身近に実現することを可能にした鉄とガラスの建築技術に圧倒されること請け合いです。そして、こうした当時の先端技術がエレガントな装飾文化を纏う姿に、技術者達が抱いたに違いないわくわくするような創造的な思いと、試行錯誤の努力の結晶を見るのである。



写真54-3 キッブル・パレス内観